

必修



真正中



不破中

本巣市立真正中学校・垂井町立不破中学校

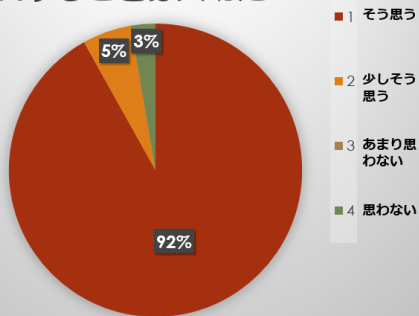
【单元名】
健康な生活と疾病の予防

＜授業の展開＞

- 1 日本のがんの現状について
- 2 がんの発生について
- 3 がんの治療法について
- 4 がんになりにくくするためにできること
- 5 がん検診の有効性について
- 6 アンケートへの記入（さらに知りたいこと）



感想やアンケートのオンライン入力

「がん」について
学習することは大切だ

授業改善につなぐための事前アンケートの実施

理由

- ・ どのような人ががんになりやすいのか知りたいから
- ・ がんについて知ることによって将来防げるかもしれないから
- ・ がんについて知ることが分かれば防いだりできるかもしれない
- ・ なる前に予防できるかもしれないから
- ・ がんにならないように意識することができる。
- ・ がんについて知っておくことは、将来もしがんになったときに役立つかも知れないから
- ・ 将来なるときにどうすればよいか分かる
- ・ 知っておいた方が将来役に立つかも知れないから

問題意識を共有し、主体的な追究につなげるための授業導入資料



がんについての基本的な内容を学ぶ保健体育科の指導



文部科学省資料を活用した保健体育科の指導

〔外部講師との連携上の留意点〕

- ・ 次時の指導効果を高めるために、がんに関する理解を重点とする。時間目の終わりにアンケートを記入する時間を設け、その内容を集約して外部講師（医師）に伝え、生徒の実態を踏まえた意図的な指名や資料作成上の参考となるようにした。


モデル A	道徳	垂井町立不破中学校
		主 題 名：いのちを考える 指導内容：D(19)生命の尊さ

<授業の展開>

- 1 「生きる」とはどのようなことか、考えを交流する。
- 2 資料「奇跡の一週間」を範読する。
- 3 発問：キツネの挿絵をお願いした時、始めは後悔していたのに、途中から注文をつけた私はどんな気持ちだったのだろうか。
- 4 発問：「あの時間は、私にとっても本当にかげがえのないものでした。」と私が考えたのはどうしてだろう。
- 5 発問：かげがえのない時間を過ごすことができたのは、私と北村さんだけだろうか。
- 6 本時の道徳的価値をまとめる。
- 7 これまでの生活を振り返り、「生きる」ということについて、また、これからの生活について自分を見つめよう。
- 8 教師の話

【生徒の振り返り】

- ・残された時間が短くても、その時間を精一杯生きることが大切だとわかりました。これからは、「いのち」があることを大切に思い、精一杯に生きていきたいです。
- ・もう治らない病気の方は「かわいそう」と思っていました。でも、もう治らなくても一生懸命に生きていることに「かわいそう」と思っていたことが恥ずかしくなりました。
- ・今出会っている人とも、いつかは会えなくなる時が来る。だから、出会ったことに感謝をして、今の時間を大切にしたいと思いました。
- ・今までは、病気の方に無理をさせてはいけないと思っていました。しかし、他の人の「最後に生きがいを感じてほしい」という意見を聞いてなるほどと思いました。勝手に理解しないで、相手がどう思っているのか理解し、やりたいことがあるのならば、これからは応援したいと思いました。
- ・「死んだ人」ではなく、「一生懸命生きた人」と思うようにしたいと感じました。そして、自分も最後まで満足するように生きたいし、自分の「いのち」を大切にするだけでなく、他の人の「いのち」も大切にしたいと思いました。

モデル B		本巣市立真正中学校
		【单元名】 健康な生活と疾病の予防


<授業の展開>

- 1 生徒の質問に基づいた医師からの説明
 - ・がんについて
 - ・がんの予防法について
 - ・その他（がん検診の有効性、治療や副作用・治癒率、身近な人ががんになったら）
 ☞医師(T2)：質問をした生徒の名前を紹介しながら、具体的な事例やデータを用いた資料を用いて、前時の学習内容への理解を深める説明をしていただいた。
- 2 自分や家族が、がんになりにくくするための生活習慣づくりについて
 - ☞医師(T2)：グループのディスカッションが活発になるように、生徒の疑問にその場で答えていただいたり、具体を引き出すための問いかけをしていただいたりした。
- 3 全体交流
 - ☞医師(T2)：生徒の発表内容を整理し、望ましい生活習慣づくりのために重要なことをまとめていただいた。
- 4 がんになりにくくするためにできること
 - ☞医師(T2)：「3 全体交流」の内容を集約したスライドを示しながら、生徒が考えた内容について助言していただいた。



〔外部講師との連携上の留意点〕

- ・前時の学習内容や、生徒のアンケートを事前に渡しておき、生徒の実態を踏まえてお話ししていただくことで、生徒が自分との関わりで主体的に追究できるようにした。
- ・画用紙に書き出しながら話し合うことによって、画用紙に書かれた内容や生徒の様子を見ながら、外部講師が意図的に問いかけや補足説明等の関わりができるようにした。

モデル B		美濃加茂市立西中学校
		【単元名】 生活習慣病の予防『がんの予防』ヘルスプロモーション

<授業の展開>

- 1 生徒の質問に基づいた医師からの説明
 - ・がんの原因には、生活習慣以外に何があるか
 - ・がんになってしまうと、体はどのような状態になるか
 - ・身内ががんにならないために、または、なってしまったときに何ができるか
 ☞医師(T2)：具体的な事例やデータを用いた資料を用いて、前時の学習内容への理解を深める説明をしていただいた。
- 2 がんとの向き合い方を考える
 - ・医師からの説明を聞いて、さらに疑問に思ったことや知りたいことを質問する。
- 3 医師からのメッセージ




生徒の関心や疑問に沿った外部講師（医師）の説明



〔外部講師との連携上の留意点〕

- ・本時までに学習している内容や、生徒の質問を事前に渡しておくことで、**生徒の実態を踏まえた話をしていただき、生徒が自分との関わりで主体的に追究できるようにした。**
- ・さらに知りたいと思ったことを質問し、その質問にその場で答えていただくことで、**生徒の関心に寄り添った説明を引き出し、生徒の理解を深めることができるようにした。**


必修		県立斐太高等学校
		【单元名】 がん患者と共に生きる社会に向けて

<授業の展開（1時間目）>

- 1 「がん」について抱くイメージについて（交流）
- 2 がんの仕組みについて
 - ☞医師(T2)：誰もがなり得る可能性があり、原因として不明なものもあることを具体的に説明していただいた。
- 3 がん検診の種類や受診することの意義、受診率について
 - ☞医師(T2)：がん検診の意義や、岐阜県のがん検診受診率の現状について最新のデータを基に説明していただいた。
- 4 タブレット端末を用いた調べ学習（テーマ別追究）
 - [テーマA]
どうしてがんになってしまうのか
 - [テーマB]
なぜ、がん検診を受ける人が少ないのか
 - [テーマC]
がんになりにくくするためには
- 5 発表



ICT機器の活用による仲間との多面的・多角的な追究

モデル C		県立郡上高等学校
		【单元名】 生涯を通じる健康（医療制度とその活用）

<授業の展開>

- 1 前回の復習
- 2 治療法を選択するうえで何を重視するか（ディスカッション）
 - Case 1 45歳既婚 子供二人 75歳の母と同居
 - Case 2 30歳独身 仕事に力を入れている時期
- 3 インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオンについて
- 4 緩和ケアについて
 - ☞ 医師(T2)：治療説明の現状や配慮、緩和ケアについて解説していただいた。
- 5 中濃厚生病院でのがん患者支援の実際について
 - ☞ 医師(T2)：患者によって重視したいことは異なり、あらゆる面を考慮し、納得して治療法を選択していく必要があることを説明していただいた。




事例を自分事として捉え、主体的に考える生徒



双方向性を担保したオンライン指導

【外部講師との連携上の留意点】

- ・感染防止対策によって学校に赴くことが難しい場合に加え、今後、遠隔地における指導も視野に、双方向性を担保したオンライン形式で指導していただいた。

モデル D		県立斐太高等学校
		【单元名】 生涯を通じる健康（医療制度とその活用）

<授業の展開>


- 1 (著名人)さんは、生活習慣に問題があって白血病になったのだろうか
- 2 AYA世代のがんについて
- 3 身近な人が「がん」になったとき、自分には何ができるか
 - [テーマA] 家族ががんになったら
 - [テーマB] 自分のパートナーががんになったら
 - [テーマC] 自分のがんになったら
- 4 がん患者が暮らしやすい社会について
 - ☞ 医師(T2)：全体で各グループの発表を交流した後に、がんの治療法、社会復帰するまで、がん患者が暮らしやすい社会について、実例をもとにお話ししていただいた。



外部講師（医師）からの即時評価

【外部講師との連携上の留意点】

- ・教諭(T1)の説明に対する補足説明や生徒の考えに対する即時評価やアドバイスを行うT2として参加していただくTT授業形式とした。
- ・がんの原因は生活習慣以外にもあることや、原因がはっきりしていない場合もあること、また、早期発見、早期治療ができれば、多くの場合、治る病気であることを専門医である医師がおさえることで、生徒が誤った認識や不安をもつことがないようにした。
- ・最新の治療法や県内がん検診受診率等のデータ例に説明していただくことで、生徒の関心を高め、正しい情報の理解に基づいた思考・判断・表現ができるようにした。

モデル D		県立恵那高等学校
		【单元名】 がんへの向き合い方「自分らしく生きる」

<授業の展開>

- 1 がんとはどのような病気だったか振り返る
- 2 緩和ケアについて
 - ☞ 医師(T2)：緩和ケアは終末期ケアではないこと。治療と並行してがんが診断されたときから、場合によっては亡くなった後の遺族へのケアも含めて、がん患者とその家族に対して苦痛を和らげるよう支援するものであることを補足説明。
- 3 もし、身近な人ががん宣告を受けたら、あなたには何ができますか？
- 4 もし、あなたががん宣告を受けたら、どう感じますか？
 - ☞ 医師(T2)：グループディスカッションに加わっていただき、価値付けや、問いかけによって、発言の根拠となる見方や考え方を引き出していただいた。
- 5 もし、あなたが余命半年を宣告されたら、残された時間をどう過ごしていきたいですか？
- 6 闘病生活を乗り越え、「自分らしく」やりたいことをやり遂げた著名人の紹介
- 7 「自分らしく生き抜いた」ある方のこと
 - ☞ 医師(T2)：過去に治療を担当された患者さんの闘病の様子を基に、「自分らしく生き抜く」ということについてお話していただいた。




既習の内容や経験を基に、事例を自分事として捉える生徒



外部講師（医師）の問いかけや即時評価による思考の深まり

[外部講師との連携上の留意点]

- ・ディスカッションに加わっていただき、生徒の意見の価値付けや、根拠の問いかけなどによって、生徒の多面的・多角的な思考を促し、「自分らしく」生きることについての自分なりの考えをもつことができるようにした。
- ・ディスカッションでの生徒の発言を取り上げ、位置付け・価値付けを行いながら説明（補足や修正）をしていただくことによって、生徒が自己とのかかわりで主体的に考え、「自分らしく」生きることについての考えを深めることができるようにした。

モデル D		垂井町立不破中学校
		【单元名】 がんと向き合う

<授業の展開>

1 前時の振り返りと講師の紹介

☞ 医師(T2)：冒頭に「2人に1人はなり得るがんという病気は一人で背負うにはあまりに重く、その重みについて一緒に考えることで、支え合うための心構えをつくる時間にしよう。」と生徒に語り掛け、学習の方向付けをしていた。

2 もし「がんです。」と宣告されたら、どんな気持ちになるか（交流）

3 映像資料「文部科学省『がんとともに生きる』エピソード1がん経験者（長谷川さん）」を視聴

4 長谷川さんの生き方についてどう思うか（交流）

5 講師の説話による単元のまとめ

- ①生徒の発言から感じたこと
- ②最新のがん治療と、今後期待される治療法
- ③心に響いたがん患者の言葉
- ④垂井町内の「がん検診」受診率の向上、普及に向けて中学生に期待すること



☞ 医師(T2)：学校医という立場から、学校における健康教育と関わらせながら、具体的な事例を挙げてお話ししていただくことで、様々な人々が協力して健康な暮らしをつくりあげていくことの大切さを理解できるようにした。



地域医療を支える学校医による指導

医療費について

医療費が高額になったときのために

高額療養費

のことがっておきましょう!

高額療養費とは、医療費が高額（超過）したときに、自己負担額を一定額に抑制する制度です。高額療養費の上限額は、年齢や所得によって異なります。詳しくは、お住まいの自治体のホームページをご覧ください。

垂井町のがん検診

種類	検査内容	受診料
大腸がん	便潜血検査	500円
胃がん	胃エックス線検査	700円
胃がんリスク	血液検査	500円
子宮頸がん	細胞診など	700円
乳がん	マンモグラフィーなど	700円
肺がん	胸部エックス線検査	500円
前立腺がん	血液検査	500円

垂井町保健センターに資料提供していただきました。

令和2年度垂井町のがん検診受診率

種類	受診率
大腸がん	7.4%
胃がん	3.6%
胃がんリスク	0.7%
子宮頸がん	4.6%
乳がん	8.4%
肺がん	6.0%
前立腺がん	9.3%

国が目標としている受診率は、**50%**

令和3年7月垂井町保健センターに資料提供していただきました。

地域の現状や最新の情報を伝える外部講師提供資料

がんを
正しく理解
してほしい



がん患者には
さまざまな願いがある

がん検診の普及
に向けて
中学生のあなたに
期待すること

正しい情報を
受け取って発信する

～「がん」を通して学ぶ～ 外部講師から生徒へのメッセージ

〔外部講師との連携上の留意点〕

- ・前時の学習内容や、生徒のアンケートを事前にお渡ししておき、生徒の実態を踏まえてお話ししていただくことで、生徒が自分との関わりで主体的に追究できるようにした。
- ・学校医という立場から、1年時の防煙教室や3年時の性講話等、学校における保健教育と関わらせてお話しいただくことで、生徒が身に付けている知識等を関連付ける思考を生み出し、「がんの予防」について深く理解することができるようにした。
- ・学校医という立場から、垂井町のがん検診の受診率や、近隣の病院での先端医療の紹介など具体的に話をさせていただくことによって、生徒がより自分との関わりで主体的に考えることができるようにした。